

付

特許・実用新案登録一覽

—昭和54年度—

〈日本特許〉 74件

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
1	46-13700 (46. 3.15)	53-23354 (53. 7.14)	940984 (54. 2.20)	熱可塑性重合体の製造方法 (高木 利治, 吉田 敏郎, 橋本 勉, 清水 明彦)	1-クロロブタジエンを0.5~40重量%含むクロロブレン共重合体5~40重量%の存在下で芳香族ビニル化合物の少なくとも一種とそれにエチレン性不飽和ニトリル, アクリル系単量体の少なくとも一種をグラフト共重合することを特徴とする耐候性および耐燃性, 耐衝撃性のすぐれた熱可塑性樹脂の製造法。
2	46-47672 (46. 7. 1)	53-20551 (53. 6.27)	940990 (54. 2.20)	耐衝撃性塩化ビニル樹脂の製造方法 (小坂勇次郎, 吉田 敏郎, 藤田 宣宏, 斉藤 光高)	エチレン・酢酸ビニル共重合体およびスチレン重合体の存在下で塩化ビニルを重合することを特徴とする耐衝撃性塩化ビニル樹脂の製造方法。
3	46-62576 (46. 8.19)	53-21038 (53. 6.30)	940995 (54. 2.20)	塩化ビニルグラフト重合体製造法 (吉田 敏郎, 小岩 成次)	塩化ビニル単量体を溶媒としてジイソシアネート化合物とポリオキシテトラメチレングリコールを反応させてホリウレタンを生成させ, これにラジカル重合開始剤を加えることを特徴とする塩化ビニルグラフト重合体の製造法。
4	47-50373 (47. 5.23)	53-23789 (53. 7.17)	941013 (54. 2.20)	シクロドデセン製造用触媒の製造法 (桂川 寛二, 吉光 幹治)	pH5~10 のテトラクロロパラジウム(Ⅱ)酸のアルカリ金属塩の水溶液をアルミナに接触させることによる, シクロドデカトリエン-1・5・9の水素添加によるシクロドデセン製造用触媒の製造法。
5	50-49754 (50. 4.25)	53-20076 (53. 6.24)	941125 (54. 2.20)	白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製造法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 斉藤 光高, 佐藤 真一)	酢酸ビニル含量10~50重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体を低級アルコール媒体中で, アルカリケン化するに際し, 脂肪族アミンを添加することを特徴とする白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製造法。
6	50-63519 (50. 5.29)	53-20556 (53. 6.27)	941131 (54. 2.20)	核酸塩基を含むポリ第四級アンモニウム塩の製造方法 (清田 徹, 清水 明彦, 小坂勇次郎)	一般式 (1) $\left[\text{CH}_2 - \underset{\text{R}}{\text{C}} \begin{array}{c} \diagup \\ \text{N} \\ \diagdown \end{array} \right]_n$ (ただし, Rは水素原子, (核酸塩基単独の場合は除く) または炭素数1ないし4のアルキル基である。) および一般式 (2) $\left[\text{CH}_2 - \underset{\text{C}}{\overset{\text{R}_1}{\text{C}}} \begin{array}{c} \diagup \\ \text{CH}_2 - \text{N} \\ \diagdown \\ \text{R}_2 \\ \text{R}_3 \end{array} \right]_n$ (ただし, R ₁ は水素原子 (核酸塩基単独の場合

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					は除く) または炭素数1ないし4のアルキル基である。R ₂ , R ₃ は炭素数1ないし10の炭化水素基である。) 示されるモノマー単位を含有する重合体に核酸塩基および/またはその関連化合物の2'-ヒドロキシ-3'-ブromプロピル誘導体を溶媒中で反応させることを特徴とするポリ第四級アンモニウム塩の製造方法。
7	51-45345 (51. 4.23)	53-21914 (53. 7. 5)	941148 (54. 2.20)	エチレン系重合体へのカルボキシル基の導入方法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下, 水溶性の α ・ β -不飽和カルボン酸塩, または, α ・ β -不飽和カルボン酸塩と一般式 $\text{CH}_2=\text{C} \begin{matrix} \text{X} \\ \text{Y} \end{matrix}$ (X, Yは同種または異種で, 水素, 塩素, アルキル基, アセトキシ基, シアノ基, カルボン酸エステル基からなる群から選ばれる) で表わされるビニリデンモノマーとの混合物を水媒体中で重合あるいは, 共重合するに際し, 第四級アンモニウム塩系界面活性剤を介在させることを特徴とするエチレン-酢酸ビニル共重合体へのカルボキシル基の導入方法。
8	47-77469 (47. 8. 2)	53-28408 (53. 8.15)	941711 (54. 2.20)	イソブチレンからのメタクロレインおよびメタクリル酸の製造法	Sb _a V _b Mo _c Te _d W _e M _f O _g (ここで, Mは, Bi, Tl およびUからなる群から選ばれた元素であり, 添字 a, b, c, d, e, f, g は原子比を表わす) なる実験式において, a=10 のとき, b=0.1~10, c=0.4~15, d=0.1~10, e=0~2, f=0.01~2 なる組成 (g は上記実験式を満足する数値) を有する固体酸化触媒を使用し, イソブチレンと分子状酸素とを気相にて接触反応させることを特徴とするメタクロレインおよびメタクリル酸の製造法。
9	47-58888 (47. 6.13)	53-21037 (53. 6.30)	942654 (54. 3.15)	カルボキシル化重合体の製造方法	99~40重量部のエチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下, 0.1~20重量部の α ・ β -不飽和カルボン酸あるいはその無水物と1~40重量部の塩素含有ビニルモノマーを共重合させることからなる不飽和カルボン酸と塩素含有ビニルモノマーのグラフト共重合体を含む重合体の製造方法。
10	47-45844 (47. 5.11)	53-27756 (53. 8.10)	944890 (54. 3.20)	耐衝撃性スチレン系樹脂の懸濁重合方法	エチレン系共重合体の存在下, スチレン, アクリロニトリルあるいはスチレン, アクリロニトリルと他の重合可能なビニルモノマーを共重合するにあたり, ポリビニルアルコール系分散剤とポリアクリルアミドまたは部分ケン化ポリアクリルアミドを懸濁安定剤として水性懸濁重合することを特徴とする耐衝撃性スチレン系樹脂の製造方法。
11	48-103915 (48. 9.17)	53-28056 (53. 8.11)	944954 (54. 3.20)	塩化ビニル樹脂の接着法	クロロプレン-メタクリル酸メチル共重合体と塩化ビニル樹脂との混成体を, 接着剤として使用することを特徴とする塩化ビニル樹脂の接着法。
	50-114871 (50. 9.25)	53-28337 (53. 8.14)	945043 (54. 3.20)	エチレン系グラフト共重合体非水エマルジョンの製造方法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下, α ・ β -不飽和カルボン酸および/またはその無水物と一般式

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
12	森下 延男)				$\text{CH}_2=\text{C} \begin{array}{l} \diagup \text{X} \\ \diagdown \text{Y} \end{array}$ <p>(ただし, X, Yは異種または同種で水素, 塩素, アルキル基, アセトキシ基, カルボン酸エステル基から成る群から選ばれる)を有する少なくとも一種のビニリデン単量体を共重合することによって得られるカルボキシル化エチレン共重合体100部を芳香族炭化水素, 脂肪族炭化水素および/または塩素化炭化水素50~5,000部の溶媒と C₁~4 のアルコール 50~5,000部との混合物に溶解してなるエチレン系グラフト共重合体非水エマルジョンの製造方法。</p>
13	50-141208 (50.11.27)	53-24378 (53. 7.20)	945050 (54. 3.20)	三成分以上の混合ガス中の一成分を分離する方法並びに装置	吸着・脱着工程より実質的になる圧力差再生方式による吸着分離方法によって使用する吸着剤に対して吸着性の異なる三成分或いはそれ以上の成分からなる混合ガスより選択的に相対的弱吸着成分或いは該成分群を分離濃縮する方法の脱着操作に於いて原料供給口と該供給口と反対側にある相対的吸着親和性の弱い成分を優先的に流出せしめる流出口との中間にあり, 最も強く吸着される成分或いは成分群の塔内分布位置より原料供給口に対して少なくとも下流側にもうけた圧抜口より最低脱着圧より高い圧力にある吸着塔内の残留ガスを排出せしめ, 最低脱着圧力或いはその付近まで膨張せしめたのち, 塔内ガスの抜出しが終り最低脱着圧力にある該塔或いは他の塔の同一位置にある圧抜口より送入し, 原料供給口側へ流通せしめることから成る最も強く吸着される成分或いは成分群を塔内より洗い出す工程を含むことを特徴とする圧力差再生方式による三成分以上の混合ガスの分離方法。
14	48-62019 (48. 6. 4)	53-24402 (53. 7.20)	947320 (54. 4.20)	ジオール類の製造法	テトラヒドロフランあるいはアルキル置換テトラヒドロフランのそれぞれの過酸化物をニッケル系触媒の存在下で水素化させることを特徴とするジオール類の製造法。
15	48-101229 (48. 9.10)	53-25080 (53. 7.25)	947333 (54. 4.20)	反応型繊維用防炎処理剤	脱塩酸剤の存在下, オキシ塩化リンに炭素数2乃至4のハロゲン含有アルコールと, アミン類とを反応せしめ, 得られた生成物をホルマリンでメチロール化して得られる反応型繊維用防炎処理剤。
16	49-65607 (49. 6.11)	53-28177 (53. 8.12)	947361 (54. 4.20)	熱溶融型接着剤組成物	(1)酢酸ビニル含量が5~50重量%, メルトインデックスが1~400g/10分のエチレン/酢酸ビニル共重合体99.5~80重量部と, (2)不飽和酸/飽和酸/多価アルコールから得られた不飽和アルキド0.5~20重量部, (3)有機過酸化物0.05~5重量部とを加熱混練して得た変性エチレン/酢酸ビニル共重合体より成ることを特徴とする熱溶融型接着剤組成物。
	49-99475 (49. 8.31)	53-28311 (53. 8.14)	947372 (54. 4.20)	著しい表面荒れを有する熱可塑性樹脂成型品	熱可塑性樹脂100重量部に該樹脂の軟化温度より少なくとも50°C以上高い軟化温度を有する

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
17	(山本 鉄也, 俵口 照海, 鈴木 正晴)			の製造方法	物質の碎片又はフィルム細片10~200重量部, 不融性充填剤粉末50~200重量部および発泡剤0.1~5重量部を混合し該熱可塑性樹脂の軟化温度より高く該樹脂の軟化温度より50°C以上高い軟化温度を有する物質の軟化温度より低い温度で且つ, 0.3m/分~10m/分の押出速度で押出成形することを特徴とする表面荒れを有する成型品の製造方法。
18	50-127359 (50.10.24)	53-27293 (53. 8. 8)	947396 (54. 4.20)	ホットメルト剤加工用 押し出し装置	大口径シリンダ, テーパー部シリンダ, 小口径シリンダよりなるシリンダでその内面の表面あらさをホットメルト剤供給口側より小口径シリンダの吐出端部に向けて漸減させたものと, スクリュフライド外周が前記シリンダ内面形状に対応しかつスクリュ溝深さがホットメルト剤供給口から排出端に行くにつれて漸次減少するスクリュを有するホットメルト剤を加工押出するものにおいて, テーパー部スクリュのフライドにのみ複数個所その深さが周方向に漸減する弧状の切欠きを設けたことを特徴とするホットメルト剤加工用押し出し装置。
19	50-127360 (50.10.24)	53-27294 (53. 8. 8)	947397 (54. 4.20)	ホットメルト剤加工用 押し出し装置	ホットメルト剤の供給部, この供給部に連通する大口径部, テーパー部, 小口径部より形成されるシリンダ部と, このシリンダ周囲に設けられた加熱機構と, 前記シリンダの内面と対応する形状と供給部から排出部に至る間漸減するスクリュ溝深さをもち前記シリンダ内で回転可能なスクリュ機構と, 前記シリンダ内面を供給部から排出部に向け表面粗さを漸減する構造とを有しホットメルト剤を加工押出するものにおいて, 前記スクリュの軸中空部に水密にかつ滑動して出入し, 前記スクリュに対する冷却水噴出穴位置をそれぞれ独立して任意に設定することのできる複数本の単位管よりなる冷却水供給管を有するスクリュ冷却装置を設けたことを特徴とするホットメルト剤加工用押し出し装置。
20	47-53662 (47. 5.30)	53-23809 (53. 7.17)	947889 (54. 4.20)	イソブチレンからのメ タクロレインの製造法	アンチモン, バナジウム, テルル, およびモリブデン, あるいはタングステンを含む複合酸化物であって, その組成が, $Sb_a V_b Te_c M_d O_e$ (ここで $M=Mo$ あるいは W) なる実験式において, 原子比で $a=10$ のとき, $b=0.1\sim10$, $c=0.1\sim10$, $d=0.1\sim16$ で表わされる範囲 (e =上記各成分が結合して生成する酸化物を満足する数) の触媒を使用して, 気相において, イソブチレンと分子状酸素とを含む混合物を接触反応させることを特徴とするメタクロレインの製造法。
	50-70946 (50. 6.13)	53-25575 (53. 7.27)	948416 (54. 4.20)	多層回転サーキュラ イ	多数の溶融樹脂導入口を有する固定金物の長手方向に貫通して横断面円形の中空穴を設け, 該中空穴内に同じく横断面円形の内側コアを回転可能に嵌合すると共に該内側コアと固定金物との間に前記溶融樹脂導入口に連通する多数の

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
21					<p>ング状樹脂溜を設け、該内側コアの内部には前記リング状樹脂溜より内方に該リング状樹脂溜に連通しかつ内側コアの長手方向に設けた多数の円形の樹脂通路と、該内側コア内に設けた所定数のユーティリティ供給通路とを該内側コアに一体に形成し、該内側コアの上部には半球面、球面など弧状部分を有する多数の中間コアとハウジングとを設け、該多数の中間コアとハウジング相互間に各層樹脂通路を形成して厚薄調整を自在とした多層サーキュラダイを配設し該多層サーキュラダイの各層樹脂通路と前記円形の樹脂通路とを連通させたことを特徴とする多層回転サーキュラダイ。</p>
22	46-7893 (46. 2.19)	53-31844 (53. 9. 5)	949391 (54. 4.20)	1.4-ジクロロブテン-2 または3.4-ジクロロブ テン-1の異性化方法	<p>3・4-ジクロロブテン-1への1・4-ジクロロブテン-2の異性化または1・4-ジクロロブテン-2への3・4-ジクロロブテン-1の異性化方法において、触媒ナフテン酸銅と助触媒としてジメチルスルホランとを含む触媒組成物と異性化される前記化合物とを接触させることを含む方法。</p>
23	48-17921 (48. 2.15)	53-31851 (53. 9. 5)	949408 (54. 4.27)	1.12-ドデカン二酸の 精製法	<p>沸点 50°C~200°C の範囲のアルコール類を溶媒として用いるかまたは、これに水もしくはベンゼンを加えたものを溶媒として用いることにより、不純物を含有する1・12-ドデカン二酸を再結晶することを特徴とする1・12-ドデカン二酸の精製法。</p>
24	50-9329 (50. 1.23)	53-33317 (53. 9.13)	949443 (54. 4.27)	β 化 α 型半水石膏の製 造法	<p>湿式リン酸製造プラントより副生するα型半水石膏ケーキに後記乾燥工程もしくは粉碎工程よりリサイクルされる半水石膏粉末を加え附着水分の一部を蒸発し、残部を水和する混合水和工程で混合し、次いで該混合物を乾燥及び脱水したのち粉碎し、一部は前記混合水和工程にリサイクルし、残部を製品として得ることを特徴とするβ化α型半水石膏の製造法。</p>
25	50-9330 (菊地 光雄, 井川 一成, 佐藤 孝男, 佐々木四郎, 二宮 豊)	53-33318	949444	β 化 α 型半水石膏の製 法	<p>湿式リン酸製造工程で副生するα型半水石膏を、5~50% (乾量基準) の付着水を有する状態で放置し、その一部を水和させて結合水量を8~15%とした後、乾燥、脱水、粉碎することを特徴とするβ化α型半水石膏の製法。</p>
26	47-44652 (47. 5. 8)	53-31397 (53. 9.12)	954385 (54. 5.31)	粉体流の含水率連続測 定装置	<p>含水率を測定すべき粉体が流通している管内又はこの管を分枝した管内にほぼ一定の速度で粉体を分流させるボックスを設け、このボックスに乾燥キャリアーガス流と前記粉体流とを接触させる室（接触室という）を接合し、また接触室に同室において互いに接触したキャリアーガス流と粉体流とをそれぞれの単独の流れに分離する室（分離室という）を接合し、前記接触室には乾燥キャリアーガス供給管を、かつ分離室には、キャリアーガス排出管および粉体排出口を設け、さらにこのキャリアーガス排出管にそのキャリアーガス中の水分を測定する測定器を接続したことを特徴とする粉体流の含水率連続測定装置。</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
27	49-98423 (49. 8.29)	53-35938 (53. 9.29)	954405 (54. 5.31)	p-スチレンスルホン酸アンモニウムの製造法 (桂川 寛二, 服部 達夫, 木原 啓一, 玉林 範三)	p-スチレンスルホン酸アルカリ金属塩に、炭素数7以上のアミンと鉍酸を水中で反応させてp-スチレンスルホン酸アミン塩をつくり、ついで該アミン塩にアンモニア水を反応させることを特徴とする p-スチレンスルホン酸アンモニウムの製造法。
28	49-101382 (49. 9. 5)	53-33575 (53. 9.14)	954407 (54. 5.31)	シアノ基を有する共役ジエンの製造方法 (野中 悠次, 木原 啓一, 弘中 敏夫, 小田 康弘)	2-シアノ-3-ヒドロキシ-1-ブテンを水溶液として加えたアルカリ金属の無機塩の存在下に脱水化することによって、2-シアノ-1, 3-ブタジエンを製造することを特徴とする2-シアノ-1, 3-ブタジエンの製造方法。
29	50-96635 (50. 8.11)	53-35939 (53. 9.29)	954423 (54. 5.31)	スチレンスルホン酸アンモニウムの製造法 (桂川 寛二, 服部 達夫, 木原 啓一, 玉林 範三)	スチレンスルホン酸アルカリ金属塩より、スチレンスルホン酸アンモニウムを連続的に製造する方法に於いて (1) スチレンスルホン酸アルカリ金属塩水溶液を炭素数7以上の有機アミンのプロトン酸塩を含有する有機溶媒と接触させ、スチレンスルホン酸有機アミン塩をつくる第1工程。 (2) 第1工程より得られるスチレンスルホン酸有機アミン塩を含有する有機相をアンモニア水と接触させ、スチレンスルホン酸アンモニウムをつくと同時に有機アミンを含有する有機溶媒を回収する第2工程。 (3) 第2工程より得られる有機アミンをプロトン酸と反応せしめて有機アミンのプロトン酸塩を再生し、これを第1工程に循環する第3よりなることを特徴とするスチレンスルホン酸アンモニウムの製造方法。
30	50-100222 (50. 8.20)	53-34198 (53. 9.19)	954424 (54. 5.31)	リンを含むアルミニウム系スラッジの処理方法 (宮之原 勲, 宮崎 弘)	リンを含むアルミニウム系スラッジに硫酸を加えてアルミニウムを溶解した後に鉄化合物を加え、更に中和剤を加えるか、あるいは加えずしてpHを1.5~4に調節することにより、リンの沈殿を析出させ、分離すると共にリンの混入の少ない硫酸アルミニウム水溶液を得ることを特徴とするリンを含むアルミニウム系スラッジの処理方法。
31	50-100224 (50. 8.20)	53-34199 (53. 9.19)	954425 (54. 5.31)	鉄を含むアルミニウム系スラッジからのアルミニウム化合物の回収法 (宮之原 勲, 宮崎 弘)	第二鉄を含むアルミニウム系スラッジに硫酸を加えてアルミニウム化合物を溶解した後、該硫酸水溶液に中和剤を加えてpHを3から4に調節することにより鉄の沈殿を析出させ、分離することを特徴とする鉄の混入の少ない硫酸アルミニウム水溶液の回収法。
32	50-100225 (50. 8.20)	53-35880 (53. 9.29)	954426 (54. 5.31)	鉄またはマンガン化合物を含むアルミニウム系スラッジからのアルミニウム化合物の回収方法 (宮之原 勲, 河村 秀雄)	第一鉄 又は/および 第一マンガン化合物を含むアルミニウム系スラッジに硫酸を加えてアルミニウム化合物を溶解した後、該硫酸水溶液に飽和水溶液のpHが約7~11を示す弱塩基性の無機化合物を加えてpH4~6とし再びアルミニウム化合物を析出させることを特徴とする、鉄 又は/およびマンガンの混入の少ないアルミニウム化合物を回収する方法。
	50-100226 (50. 8.20)	53-37666 (53.10.11)	954427 (54. 5.31)	スラッジの処理方法	凝集沈殿により生成したスラッジに硫酸を加え、スラッジ中の水酸化物を硫酸水溶液として

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
33	(宮之原 勲, 河村 秀雄)				溶解した後、飽和水溶液の pH が約 7~11 を示す無機化合物を中和剤として加え、再び水酸化物を析出させることによりスラッジの沝過性を向上させる方法。
34	50-149067 (50.12.16)	53-35825 (53. 9.29)	954430 (54. 5.31)	感圧凝固性ラテックスの製法	クロロプレンラテックス中のゴム分 100 重量部に対し、変性澱粉を 0.01~10 重量部添加することを特徴とする初期接着力を改善した感圧凝固性ラテックスの製法。
35	47-58008 (47. 6.10)	53-33960 (53. 9.18)	955095 (54. 5.31)	リン酸精製法	リン鉱石を硫酸で分解して得る湿式法リン酸製造工程によって得られた亜鉛成分不純物含有リン酸をリン酸の分配係数が水の分配係数よりも大なる有機溶媒と接触せしめて、リン酸を有機溶媒中へ移行せしめるにあたり、リン酸と該有機溶媒とを複数工程で接触せしめ、かつ、リン酸の含量が少ない有機溶媒を該抽出工程によってリン酸含量が少なくなったりリン酸水溶液と接触せしめ、リン酸含量が多くなった有機溶媒をリン含量が多い水溶液と接触せしめる向流接触によっておこない、かつ、複数段の抽出工程において、溶媒中に含有される塩素イオン濃度が 0.2~10 g/l の範囲となるように塩酸を加えて調節し、上記抽出によって得られた高濃度にリン酸を含有する有機溶媒を塩素イオン濃度が 20 g/l 以下のリン酸水溶液によって洗浄し、リン酸の高抽出率下で亜鉛成分不純物を含まないリン酸を得ることを特徴とするリン酸精製方法。
36	49-123082 (49.10.25)	53-39064 (53.10.19)	957210 (54. 6.14)	液体定量混合装置	第 1 および第 2 の異なる液体を 2 つのノズルから夫々流出混合せしめるための液体の合装置において、それぞれの流出液の混合比が、関数発生器の出力信号によって作動するフラッパーにより、あらかじめ定められた混合比に制御されるように構成したことを特徴とする液体定量混合装置。
37	47-52514 (47. 5.29)	52-49440 (52.12.17)	957527 (54. 6.14)	粒状重炭酸ソーダの製法	炭酸ソーダを含む水溶液から析出分離してえた炭酸ソーダー水塩の結晶 (または該結晶と粒状重炭酸ソーダとの混合物) を、炭酸ガスおよび水蒸気と 60~90°C の温度および 10 kg/cm ² G を越えざる圧力下に接触させることを特徴とする粒状重炭酸ソーダの製法。
38	47-129219 (47.12.25)	53-38719 (53.10.17)	957528 (54. 6.14)	ラネーニッケル触媒の再生法	ブタジエンを除く 1, 3 ジエン類またはスチレンの過氧化物重合体の水酸化反応に使用したラネーニッケル触媒を、不活性気体雰囲気中でアンモニア、アルカリ金属の水酸化物及び炭酸塩、アルカリ土類金属の水酸化物及び炭酸塩、炭素数 1~4 のカルボン酸のアルカリ金属塩及びアルカリ土類金属塩からなる化合物群の中から選ばれた少なくとも 1 種の化合物の 0.1~5 規定溶液により 20~200°C の温度にて洗浄することを特徴とするラネーニッケル触媒の再生法。
	48-8577 (48. 1.22)	53-39919 (53.10.24)	957529 (54. 6.14)	合成樹脂の製造法	触媒として、ヘキサメチルリン酸トリアミド、またはヘキサメチルリン酸トリアミドと共に助

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
39	(小坂勇次郎, 植村 勝, 秋元 明, 高本 邦夫)				触媒としてアルコールを用いることを特徴とする単環環状エーテルと環状酸無水物との共重合物の製造法。
40	49-77772 (49. 7. 9)	53-42070 (53.11. 8)	957533 (54. 6.14)	金属とポリオレフィンとの接合体の製法	10-50重量%の酢酸ビニルを含有するエチレン・酢酸ビニル共重合体の存在下, フマル酸またはこれと α, β 不飽和モノカルボン酸を反応させて得られる 0.5-100 mgKOH/g の酸価を有するグラフト共重合体と金属とポリオレフィンの中に介在させ, ポリオレフィンを溶触接着させることを特徴とする金属とポリオレフィンとの接合体の製法。
41	49-141492 (49.12.11)	53-37855 (53.10.12)	957534 (54. 6.14)	ω -プロモスチレン類の製造法	スチレンプロモヒドリンまたはその同族体を脱水して ω -プロモスチレンまたはその同族体を製造するにあたり, 触媒としてスチレンプロモヒドリンまたはその同族体に対して硫酸を 0.1~0.3重量% (H_2SO_4 として) 用いる ω -プロモスチレンまたはその同族体の製造法。
42	50-74386 (50. 6.20)	53-38739 (53.10.17)	957535 (54. 6.14)	熱溶融型接着剤組成物	エチレン含有量 50~99 モル%のエチレン/酢酸ビニル共重合体ケン化物または該ケン化物とエチレン含有量が 75~99 モル%のエチレン/酢酸ビニル共重合体との混合物99.5~80重量部と, 多塩基酸/多価アルコールから得られた不飽和アルキド 0.5~20 重量部, 有機過酸化物 0.03~5 重量部とを混合加熱反応して得た変性エチレン/酢酸ビニル共重合体ケン化物より成ることを特徴とする熱溶融型接着剤組成物。
43	51-60646 (51. 5.27)	53-37749 (53.10.11)	957536 (54. 6.14)	ムーニー粘度の予測法	合成ゴムのムーニー粘度を予測するにあたり, この予測の対象である合成ゴムと同一の処方であらかじめ製造された複数の合成ゴムについて, 各分子量, M , の分子の重量分率, $f(M)$, 重量平均分子量, M_w , 定常流粘度, $\eta(k)$, 及びムーニー粘度計によって測定されるムーニー指数が一定となる前で予熱が終了し測定開始から時間, t , 経過後のムーニー指数, $ML(t)$, 及び上記一定となったムーニー指数を測定し, それぞれについて $ML(t) = (b/c) \cdot \eta^*(\omega) $ の式を満足する様に $\eta^*(\omega) = \int_{-\infty}^{+\infty} \frac{\tau H(\tau)}{1+i\omega\tau} \sin \tau$ ここに $H(\tau) = E \cdot M \cdot f(M)$ $\tau = (K/E) \cdot M \cdot M_w^{2.4}$ (ただし b : $ML(t)/ML(\infty)$ の平均値 c : $\eta(k)/ML(\infty)$ の平均値 i : 虚数単位, 以下同じ ω : 周波数, ただしムーニー粘度計内における試料の平均ずり速度と同じ値, 以下同じ) で表わされる式における K および E を求め, 予測対象物質について, 各分子量, M_s の分子の